

2020年2月3日(月)

老球の細道523号

「福島市ミニバスケットボール講習会」雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

昔の知人に久しぶりに会うと、必ず社交辞令で「お忙しいでしょう」と声をかけられる。「いや、暇で困っています。時々山に芝刈りに行っています」と答えるが信じてもらえない。しかし、週末はあいにくバスケットボールのイベントが何かしら、どこかでやっているのでも暇をもてあますことはない。先週の週末も二つの行事があった。1月25日(土)は福島市ミニバスケット協会から講習会の依頼を受けた。翌26日(日)は全会津バスケットボール選手権大会(百井杯)の観戦と充実した週末を過ごすことができた。

福島市ミニバスケットボール講習会は福島市のミニバスチームでコーチをしている大学時代の同級生・高荒俊勝氏(あおばミニ、現福島大学バスケットボールOB会長)と会津高校時代に教えさせていただいた大堀弘二氏(清北ミニ、元国体県選抜選手)のご尽力によって企画され、私を講師として招いてくれた。

福島国体記念体育館で福島市のミニバスチームから6年生のみの男女70数名が集まって行われた。中学校に進学してもバスケットボールを続けるために、もう一度正しいファンダメンタルを勉強しようということが今回の趣旨であった。このような育成の発想はさすがに福島地区である。しかも、25日(土)26日(日)は福島市ミニバス新人大会も開催中であり、土曜日は予選が終了した午後3時から6時までの隙間を利用して講習会が行われた。高荒氏をはじめとするコーチの方々も新人チームの試合が終了して休む暇もなく講習会の運営、アシスタントでさぞかし疲労困憊であっただろう。

講習会のテーマは私に一任ということだったので、小学校時代に最も向上するドリブルを主なテーマにして3つの内容を実施した。①ドリブルの基本的なつき方(デイフェンスのつきかたによる3つの状況)②デイフェンスプレッシャーを受けてのキーブドリブルからの1:1③トランジションオフenseにおけるドリブルプッシュからの1:1であった。

最近のあらゆるカテゴリーにおけるレベルの高いチームに共通する3つの要素がある。①シュートの決定力(3P、シュートフィニッシュ)②トランジションの速さ(ドリブルプッシュ)③デイフェンスプレッシャーの激しさ(特にボールマン)。などを考慮して今回の3つのテーマに絞った。

ドリルの内容、プログラムは「ドリル作成の3条件」を重視した。①ゲームライク(攻防の真剣勝負、攻防の切り替えが含まれる)②シチュエーション(ゲームの中で起こりえる具体的な場面、時間等を設定)③状況判断(力任せのプレイではなくDEFを読みながら)。

いつものことながら予定の内容は消化できなかった。私の力量不足である。子供たちも不満足だったろう。福島市新人大会のプログラムに記された「指導者のための5つの心得」一条「敗戦はあなたの責任です」。帰路、車の中で何度も頭をよぎった。またがんばろう。